

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12597

研究課題名（和文）聖地研究 甲子園—聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価の研究

研究課題名（英文）Sacred Sites Koshien:Creation of Symbolic Narrative And Relevance of the Residents' Assessment

研究代表者

森田 雅子（MORITA, Masako）

武庫川女子大学・生活環境学部・教授

研究者番号：40249503

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：甲子園地域の景観は、第一に地域住民の心象風景であり、共創の産物である。景観は地域が共創するアイデンティティで、地域のつながりから共創される。ランドマーク阪神甲子園球場を中心に紡ぎ出された物語の郷愁・感興が場所の記憶を高め、愛着を深める仕組みが明らかになった。明治末期より続く阪神電気鉄道の開発により、武庫川支流の枝川を廃川し、申川との結節点の三角州に球場を設け、巧みなメディア化により野球聖地を育んだ。球場は地域住民の生活行動の回帰点・原点として機能しており、ランドマークの物語性を強化する感興、記憶が住民やステイクホルダーの共創により定着している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は地域生活を取り巻く景観や聖地の生成と象徴性再生産プロセスに関する住民評価の研究である。景観は地域共同体が共創するアイデンティティと言える。地域の住民評価の役割について、詳細な調査とアンケートを実施し、分析した。甲子園球場というランドマークはどのように形成・評価されるのか。多田道太郎の創設した生活美学の視点から検討した。聖地研究の一環として、社会学的、観光的観点を含め、他の視座も考慮しながら、地域の基盤とする生活美学、つまり生活文化、生活質感の観点に軸足を置いて、オーバーツーリズムのネガティブな側面に対する寛容と辟易も含めて、甲子園 聖地の生成と象徴性再生産プロセスを検討した。

研究成果の概要（英文）：The landscape of the Koshien district is first of all, an imagined landscape for its residents, a product of their interactions and co-creation; represents the identity of the district and community. The narrative and myths fabricated around the landmark Hanshin Koshien Baseball Stadium reinforces interest and memory in the district and nurtures attachment. The estate development lead by Hanshin Electric Railways reclaiming land from the Edagawa River, wisely placing the stadium at the bifurcation point of the delta, delineated meaningfully the geographical boundaries of the area; a century of successive mediatic campaigns bore fruit, and the stadium has become recognized as the sacred site for high school baseball. My research shows that the landmark stadium is firmly anchored as a hub for the daily activities of the district. The effective consolidation of its mythical status continues, thanks to the synergistic collaboration of its residents and the stakeholders.

研究分野：生活美学・身体表現・表象文化

キーワード：生活美学 住民評価 景観 記憶 共創 甲子園 ランドマーク 聖地

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

甲子園の聖地化の歴史プロセスや文化的意義の研究は、主として高校野やプロ野球などの関係者や、その他、地域外のステイクホルダーの視点からの分析・評価がある。ただ、必ずしもプロ野球や高校野球ファンばかりではない住民の観点からの聖地評価は漠然としており、地元住民と野球ファンや関係者集団との関係性も曖昧である。要するに、野球聖地甲子園については住民評価の研究はなかったといえる。とりわけ、歴史学、観光学、スポーツ社会学、文化人類学的視点では肉薄しきれない、定性的な生活質感の把握が手薄で、インタビューとアンケート分析が必要であると判断した。

2. 研究の目的

聖地の景観評価はどのように測定されるか、その要素を探索することが課題となった。アンケート設問では、ランドマークの意義が住環境のデザイン・共創の軸としてどのように評価され、再生産されるのかに焦点を絞った。

3. 研究の方法

2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布・回収分の「甲子園地域に関するアンケート調査」を実施した。6640世帯に配布し、1870件のアンケート回答を回収できた。30項目にわたるアンケート調査項目を、回収結果に基づいて、単純集計・因子分析・フィールドワーク、インタビュー、テキストマイニング、書き込みの分析、クロス集計などで比較検討などを行った。

設問29・30では生活行動とランドマークの空間的・時間的呼応を分析・考察した。回答者には生活行動を時系列、場所ごとにプロットしてもらった。寝る、働く、食べる、遊ぶ、買い回りをする、移動するなどの行為が道路網・交通網を利用し、ランドマークを周期的に回遊する移動・遊動構造、生活行動のパターンを示すか検証した。

4. 研究成果

(1) 地名「甲子園」と景観の評価

「甲子園」の「甲子」と六十干支との関係はじめ、地名の含意と物理的音に対する評価は、相応しいが91.6% (回収1804件/502件書き込み) と圧倒的である。地域名「甲子園」をめぐって、景観評価の諸要素を(仮説)に基づいてアンケート11項目を設定し調査を実施した。(仮説項目: 記憶年代、居住歴/感興利用頻度、高校野球への関心度、居住地、メディア報道、景観への関心度/共創活動・連係、表現)

表1の11項目について、下記の通り、5段階で評価してもらい、5段階評価を他のアンケート設問とクロス集計し解析した。

その結果、甲子園地域の住民にとって、地域の誇り、自分の居場所という個人のアイデン

表1: 問28 (地域に対する住民の想い)

- | |
|-------------------------|
| 1. 誇りを感じている |
| 2. お気に入りの場所がある |
| 3. 歩いていて、心地よい |
| 4. リラックスすることができる |
| 5. 雰囲気や土地柄が、気に入っている |
| 6. 好きである |
| 7. 大切だと思う |
| 8. 自分の場所があると思う |
| 9. 愛着を感じている |
| 10. いつまでも変わって欲しくないものがある |
| 11. 無くなってしまうと悲しいものがある |

ティティにも関わる部分を実感するポイントとして、甲子園球場という聖地性を持つランドマークの存在が大きく影響していた。

(2) 空間の記憶の共創

景観とはある地域の持つ特性の総和、身体の延長であると同時に身体を包摂する空間である。地域には記憶・イメージ・歴史が地域住民に共創され付与される。アンケートでは、身体感覚、生活感、イメージなどが言語化され、景観の意味生成・共創への意志の発露と有意義な交流・提案がみられた。

(3) 阪神甲子園球場の記憶性・知名度

甲子園の記憶の深さと広さは地域を支配している。それらの高度のメディア化は甲子園物語の神話化をさらに促進し、聖地化を強固にする。阪神甲子園球場—甲子園—甲子園筋—甲子園番町街—甲子園口を繋ぐ道筋は、聖地領域のアイデンティティを育む。高校野球以外の活動と地名甲子園が結び付けられ知名度を高めるとともに、その神話性や聖地性を生成する機能が認識されていた。景観は地域が共創するアイデンティティなのである。

神話性、聖地性が定着する一方で、球場競技を受け入れる地域の住民として、地域のインフラストラクチャー整備への要望（ライトレール、街路樹、緑地帯の活用、南北方向、西宮北口へのアクセスの改善など）とともに、試合時の通行滞留状況の解消も課題と認識されていた。

(4) 生活者としての哲学・美学

「甲子園」に対する地域の生活感は 5 つに分類できる。①さまざまな現象をポジティブに捉える自力救済的意図 ②地域の資源、価値へあやかる、拠り所を探る意図 ③さまざまな現象をネガティブに捉える傾向 ④諦念 ⑤拒絶である。生活者は利権、生業、サーバイバルに取り組む以外、地域への関わりには消極的になりがちである。直接のステイクホルダーでなければ、地域の象徴的資源を積極的にあやかるという傾向を示す人は少ない。極端な場合は反発・拒絶として表現される。このカオスな言説の渦こそが心象風景につながる景観の創生的一端を表している。

(5) 研究成果の総括

(JSPS 19K12597) 基盤研究 (C) に採択された研究課題「聖地研究 甲子園—聖地の生成と象徴性 再生産プロセスに対する住民評価の研究」の一環として、甲子園地域の住民評価の役割分析のため、30 問のアンケート等を実施、その評価を詳細に分析した。その結果、甲子園地域の景観は地域住民の心象地理風景であり、ランドマークを起点として、地域内外のステイクホルダー、マスメディア、地域社会および住民自身が創り上げる共創の景観であると結論づけた。

大正十三年 (1924 年) より武庫川支流の三角州に球場を設け、トーナメント方式の中等野球 (のちの高校野球) を誘致してランドマークの胚芽を創出した。その物語性を強化する感興、記憶、共創などをめぐり、野球関係者、地域外のステイクホルダー、マスメディアが聖地性の強化に大きな役割を果たし、一世紀の時間をかけて野球の聖地という景観を共創してきた。社会的言説が惹き起こす住環境への影響や過度な聖地化とオーバーツーリズムなどへの否定的な意識があるものの、地域住民にとってランドマークは地域の誇りであり、個人のアイデンティティや生活行動の回帰点・原点として機能していると結論できる。

(6) 参考文献 抜粋

- Charles S. Prebish, *Religion and Sport: The Meeting of the Sacred and Profane* Connecticut, London, Greenwood, 1993.
- 清水諭『甲子園野球の神話作用に関する研究.』筑波大学教育学博士学位論文 1995.
- 清水諭『甲子園野球のアルケオロジー：スポーツの「物語」・メディア・身体文化』2008.
- Katya Mandoki, *La construcción estética del Estado y de la identidad nacional: Prosaica III.* (México: Siglo XXI editores, 2007).
- 森田雅子「甲子園 聖地論考 ―生活美学的観点から―」 森田雅子 井上雅人 編著 『生活美学叢書―生活美学と多田道太郎』19―38 頁 2020.
- 森田雅子 大井佐和乃「聖地研究―聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価」『第 35 回日本観光研究学会全国大会 学術論文集』301―304 頁、2020
- 森田雅子 「野球聖地の生活質感とこれからの展望」武庫川女子大学教育研究社会連携室第 6 回研究成果の 社会還元促進に関する発表会報告集 33―36 頁 2022
- Morita, Masako Ooi, Sawano “Sacred Sites and Sports Tourism: Bonding and the Memory of Symbol Landmarks Motivate Human Mobility - A Case Study of the Koshien District”活美学紀要 32 号 151― 174 頁 2022
- 森田雅子 「野球聖地の生活質感（3）住環境アンケート自由記述―野球聖地とこれからの展望―）第 7 回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会報告集 21―26 頁 2023
- 高橋豪仁『スポーツ応援文化の社会学』2011.
- Tricia Jenkins ,”The Militarization of American Professional Sports:How the Sports-War Intertext Influences Athletic Ritual and the Sports Media.” Journal of Sport and Social Issues 37(2013):245-260. 2014.
- Vittorio Gallese “Visions of the body.Embodied simulation and aesthetic experience” *Aisthesis.Pratiche, linguaggi e saperi dell'estetico* 10(1):41-50,2017.
- 丹羽典生編著『応援の人類学』青弓社 2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 森田 雅子 大井佐和乃	4. 巻 32
2. 論文標題 Sacred Sites and Sports Tourism: Bonding and the Memory of Symbol Landmarks Motivate Human Mobility - A Case Study of the Koshien District	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武庫川女子大学生生活美学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 151-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 森田 雅子	4. 巻 7
2. 論文標題 野球聖地の生活質感とこれからの展望（3）住環境アンケート自由記述（2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布・回収分）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第7回武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会 報告集	6. 最初と最後の頁 21 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田 雅子	4. 巻 6
2. 論文標題 野球聖地の生活質感とこれからの展望 - （2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布の回収分より） - （2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武庫川女子大学教育研究社会連携室 第6回 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会 報告集	6. 最初と最後の頁 33 - 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田 雅子	4. 巻 35
2. 論文標題 聖地研究 甲子園 聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第35回日本観光研究学会 全国大会 学術論文集 Proceedings of JITR Annual Conference	6. 最初と最後の頁 301 - 304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田 雅子, 大井佐和乃	4. 巻 5
2. 論文標題 第5回 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会 報告集 37 - 41頁・武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会 報告集	6. 最初と最後の頁 37 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 森田 雅子
2. 発表標題 野球聖地の生活質感とこれからの展望 (3) 住環境アンケート自由記述 (2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布・回収分)
3. 学会等名 第7回武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森田 雅子
2. 発表標題 野球聖地の生活質感とこれからの展望 - (2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布の回収分より) - (2)
3. 学会等名 武庫川女子大学教育研究社会連携室 第6回 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森田 雅子
2. 発表標題 聖地研究 甲子園 聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価ー
3. 学会等名 第35回日本観光研究学会 全国大会 . JITR Annual Conference 開催日:2020年12月5日 (土) 開催校:京都外国語大学 (オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森田 雅子, 大井佐和乃
2. 発表標題 野球聖地の生活質感とこれからの展望 - 住環境アンケートの概要 (2020年1月~12月甲子園番町街全世帯配布の回収分より) -
3. 学会等名 第5回 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会 武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室 2021年2月12日 オンライン開催
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 森田雅子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 武庫川女子大学 生活美学研究所 https://info.mukogawa-u.ac.jp/seibiken/wp-content/themes/seibiken/pdf/schoolseries.pdf	5. 総ページ数 319
3. 書名 『生活美学叢書 生活美学と多田道太郎』, 森田雅子 井上雅人 編著	

1. 著者名 森田 雅子 (単著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 武庫川女子大学 生活美学研究所	5. 総ページ数 281
3. 書名 『生活美学叢書:生活美学と多田道太郎』(森田雅子,井上雅人編著),「甲子園 聖地論考 - 生活美学的観点から」 19 - 38頁.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>野球の聖地「甲子園」研究報告書 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/publicat 甲子園地域 住民評価 アンケート調査 報告書 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/publication/pdf/20220104.pdf 「甲子園地域 住民評価アンケート調査報告書」 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/publication/etc/20220104.html 研究員のコラム・レポート https://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/staff/list/staff001.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒田 智子 (KURODA Tomoko) (10223968)	武庫川女子大学短期大学部・生活造形学科・教授 (44523)	
研究分担者	三宅 正弘 (MIYAKE Masahiro) (50335783)	武庫川女子大学・生活環境学部・教授 (34517)	
研究分担者	大井 佐和乃 (001 Sawano) (60779221)	武庫川女子大学・生活環境学部・嘱託助手 (34517)	
研究分担者	加登 遼 (KATO Haruka) (50849396)	大阪市立大学・大学院生活科学研究科・助教 (24402)	
研究分担者	松山 聖央 (MATSUYAMA Mao) (10885205)	武庫川女子大学・生活美学研究所・嘱託助手 (34517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関